



## 【降誕を迎える神の人たちの姿勢(2) -ヨセフ-】

聖書本文: マタイの福音書1章18-25節/暗唱聖句: イザヤ書9:6-7節

 ジョンナムチョル  
 説教者: 鄭南哲牧師

我々はいまキリストの降誕の季節を迎えて、主の御言葉を黙想してきています。御使いはマリヤにだけではなくヨセフにもイエスキリストの誕生を予告しました。今日の本文は御使いがヨセフに現れてメシヤの誕生を知らせる場面が記録されています。先週に引き続き、今日はマリヤの夫であり、イエス様の肉親の父であったヨセフはどうやって、イエスキリストを迎えたのか、そして、ヨセフの姿勢を通して、学ばされる主の降誕への我々の持つべき姿勢をともに考えてみたいと思います。

## 〈ヨセフのなやみ〉

ヨセフにとってキリストの誕生は言葉では言い表せないほど、苦しい出来事だったと思います。なぜならいままで一度も性的な関係を持たなかった、結婚を決めていた女がみごもったという知らせを聞いたからです。ユダヤ人たちはこの婚約に該当する言葉を[キドウシン]と言います。これは婚約と言う言葉より定婚という言葉がもっとちかいと思います。これは婚約(定婚)が成立されると、結婚式をあげなくてもすでに相手を夫や、妻として呼ぶことができました。それは当時、イスラエルの慣習でした。彼らは[フパ]と呼ばれる婚禮式だけ残しただけで、すでに結婚した人と同じぐらいの関係でした。本文を注意深く読んでみると、聖書は結婚を定めていた状態のヨセフとマリヤに夫、もしくは妻という言葉を使っていることが分かると思います。本文の19節をみてください。“夫のヨセフは…”ヨセフを夫として描写していること、これはその当時、イスラエルの社会的慣習として正しかったのです。

マリヤがみごもったという知らせはヨセフを悩ませました。“この不貞な女と結婚をすべきなのか”という思いと“それでも彼女はいつもぼくが愛している女ではないのか。”という思いが彼を悩ませたのです。もし、ヨセフがマリヤの不貞を口実(こうじつ)に彼女との結婚を断るなら、マリヤにはとつても恥をかかせることでした。それだけではなく、当時、ユダヤの慣習によると、それはマリヤに死を意味する宣言だとも言えます。旧約の申命記22章22-24節(上)をみてください。“夫のある女と寝ている男が見つかった場合は、その女と寝ていた男もその女も、ふたりとも死ななければならない。あなたはイスラエルのうちから悪を除き去りなさい。ある人と婚約中の処女(しよじよ)の女がおり、他の男が町で彼女を見かけて、これといっしょに寝た場合は、あなたがたは、そのふたりをその町の門のところ連れ出し、石で彼らを打たなければならない。彼らは死ななければならない。…”(22,23, 24上)

ヨセフがマリヤとの結婚を拒むことはこのようにマリヤに死を意味することですので、さらに彼は悩まされたと思います。このような悩みの中で、彼がとった行動をとおして我々は彼の人格を知ることができます。

## 〈ヨセフの人格〉

今日聖書の本文にはこのようなヨセフの人格が見られます。

1. ヨセフは正しい人でした。

“夫のヨセフは正しい人であって。…(19節)”ヨセフは道徳的に正しい人でした。だったからこそ、婚約中のマリヤがみごもったということはゆるせなかったでしょう。19節ではこう記録されています。“彼女をさらし者にしたくなかったので、内密に去らせようと決めた。”ヨセフはいくら自分ではゆるせない状況においても愛していたマリヤにのろいや死が当たらない様に気をつけています。ここでマリヤに対するヨセフの愛と彼の成熟した人格を見出すことができます。我々は自分を傷つけたり、自分を苦しめる人に対してすぐ怒りを表し、仕返ししたがる傾向があります。しかし、自分には深い傷になり、裏切られたような悲しみの中でもマリヤを守り、許したがっていた彼の姿から彼の人格と信仰がどのぐらいだったのか十分分かることができます。

ヨセフはすくなくとも以下の御言葉を守り、従おうとしていた正しい人だったのが分かります。“もし人の罪を赦すなら、あなたがたの天の父もあなたがたを赦してください。しかし、人を赦さないなら、あなたがたの父もあなたがたをお赦しになりません。(マタイの福音書6: 14-15)

マタイ18:35”あなたがたもそれぞれ、心から兄弟を赦さないなら、天のわたしの父も、あなたがたに、このようになさるのです。”

マルコ11:25”また立って祈る時、だれかに対して恨み事があつたら、赦してやりなさい。そうすれば天におられるあなたがたの父も、あなたがたの罪を赦してください。”

ルカ 6:37 “さばいてはいけません。そうすれば、自分もさばかれません。人を罪に定めてはいけません。そうすれば、自分も罪に定められませんが、赦しなさい。そうすれば、自分も赦されます。”

ルカ11:4”私たちの罪をお赦してください。私たちも私たちに負いめのある者をみな赦します。私たちを試みに会わせないでください。”

ヨセフはこの地に来られるイエスキリストを迎える前に、すくなくとも上の御言葉を実践した正しい信仰の人でした。降誕を迎えてみなさんはどういう心構えでいるのでしょうか。1年間を振り返ってみましょう。いつもみなさんの心の中にだれかに対する恨みや、憎しみ、怒りはありませんか。キリストの降誕を迎えながら、彼らを心から赦し、彼らのためにむしろ祈る心を持ってみませんか。

みなさんがほかの人に配慮するほど、ほかの人を赦すほどみなさんも神様に配慮され、赦されることを覚えて下さい。差別なく、区別なく愛するとき神様にそれ以上愛されるということを忘れないでください。

## 2. ヨセフは愛することはなにか知っていた人でした。

たとえ、ヨセフがマリヤをさらし者にさせたとしても回りのだれもヨセフを非難しなかったと思います。しかし、もし、ヨセフがそうしたなら、神様の人としての証にはならなかったと思います。義のない愛はただ感情的であり、盲目的にすぎないと思います。しかし、愛のない正義は神様の喜ばれる義ではないことを覚える必要があります。何が正しいのか、間違いなのか、だれが正しいのか、否(いな)かを問われる前に、いつもこれが神様に喜ばれることなのか、主の愛でやろうとすることなのか、みんなに徳となることなのか我々も考えながら行動すべきではないかと思えます。

聖書にはヨセフが愛のある人だったとは直接書かれていませんが、婚約者マリヤに対する怒りと失望による、さばきの代わりに、内密に彼女との関係を整理してあげることにより、最後までマリヤを守ってあげようとしているヨセフの姿を見ながら、彼がどれだけ一人を大切に、愛していたのかがわかります。マリヤに起こった出来事をもって悩んでいるヨセフがどれだけ人を愛することができた人なのか考えることができます。降誕を迎える我々にもこのような愛の心があるのでしょうか。

人を偏見なく、差別なく愛するとき、みなさんも神様にそれ以上愛されることを忘れないでください。イエス様を愛すると言いながら目に見えている兄弟を愛せない人を聖書は偽りの人だと言っています。もし目に見える兄弟、姉妹に慈しみ深くない、思いやりのないまま、この降誕に信じない人々に神様の愛を分かち合おうとすること自体は順序が違う気がしませんか。

愛するみなさん!みんな覚えましょう。なぜ?神様であるイエスキリストが人間の姿で低くなってこの地に来られたのでしょうか。我々の信仰の基本となる箇所であるヨハネの福音書3章16節の御言葉をもう一度吟味し、覚えたいと思います。

“神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。それは御子を信じる者が、ひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。”(ヨハネ3:16)、第一ヨハネ4:20-21節です。“神を愛すると言いながら兄弟を憎んでいるなら、その人は偽り者です。目に見える兄弟を愛していない者に、目に見えない神を愛することはできません。神を愛する者は兄弟をも愛すべきです。私たちはこの命令をキリストから受けています。” アーメン!

## <ヨセフを通して救いの御業を準備させる神様>

この、ヨセフに主の御使いが現れます。本文20,21節を読んでみましょう。御使いはヨセフに“**ダビデの子ヨセフ**”と呼びかけます。旧約聖書を見ると、メシヤがダビデの子孫から現れると予言されています。旧約の予言のとおり、イスラエルの民が期待していたとおり、メシヤはダビデの子孫から来られたという歴史的な事実を伝えるための背景(はいけい)としてマタイの福音書1章は予言のとおりダビデの子孫の中からイエスキリストが来られたことを立証(りっしょう)しています。なぜ神様はこのヨセフをダビデの肉親の父として選んだのでしょうか。?このヨセフがダビデの子孫だったからです。しかし、ヨセフは没落(ぼつらく)したダビデ王の子孫だと言えます。実際、ヨセフはとっても平凡な庶民に過ぎませんでした。

そんなヨセフを御使いが“**ダビデの子ヨセフ**”と呼んだのはとっても大切な意味が含まれています。つまり、人々は特にヨセフがダビデの子孫なのか、どうかに興味はありませんが、神様は御自分が旧約時代に約束されたことを覚えていました。そして、時が満ちた時、ついにヨセフをとおしてこの救いの御業を始められたのです。人々は神様の約束を忘れても、神様の約束は神様の時に、神様の方法でかならず、実現させていかれる神様の熱心によって、ヨセフが選ばれ、イエスキリストがこの地に来られたことを覚える必要があります。

イザヤ書9:6-7節を読んで見ましょう。

“**ひとりのみどりごが、私たちのために生まれる。ひとりの男の子が、私たちに与えられる。主権はその肩にあり、その名は「不思議な助言者、力ある神、永遠の父、平和の君」と呼ばれる。その主権は増し加わり、その平和は限りなく、ダビデの王座について、その王国を治め、さばきと正義によってこれを堅く立て、これをささえる。今より、とこしえまで。万軍の主の熱心がこれを成し遂げる。**”

本文20節に主の御使いはヨセフにマリヤがみごもったのは人によるのではなく、“**聖霊によるのです**”と伝えます。

聖書の原語をみると、“**聖霊による**”という単語が強調的な意味で使われています。これは超自然的な神様の奇跡による事実であることを強調するためです。これらのすべては偶然起こったのではなく、神様がすでにイエス様が生まれる700年前(B.C.759年)、旧約時代のイザヤ預言者を通して聖書に記録されている神様の御言葉を成し遂げるためだったのです。(22-23節)(イザヤ書7章14節-“**それゆえ、主みずから、あなたがたに一つのしるしを与えられる。見よ。処女がみごもっている。そして男の子を産み、その名を「インマヌエル」と名づける。**)

## <メシヤ、彼はだれなのか?イエス、インマヌエル>

ついに、旧約時代から予言されていたメシヤなるイエスキリストがヨセフとマリヤを通して来られました。

メシヤとはどなただと聖書は言っていますか。21節によると、“**マリヤは男の子を産みます。その名をイエスとつけなさい。この方こそ、御自分の民をその罪から救ってくださる方です。**”

イエスという名前から我々はその方の役割を知ることができます。イエスという名前の意味は“**神様が救ってくださる。**”という意味です。実際歴史上みどりごイエス様にだけ“**イエス**”と名づけられたわけではありません。すでに旧約時代からイエスという名前を持っていた人がとっても多くいました。代表的にヨシュアという名前は発音がすこし違うだけで、イエスという言葉と同じ

意味を持っていました。イエス様の時代にも当然イエスという名前をもっていた人々も多いた可能性もあります。いったいなぜイエスという名前が多くあったのでしょうか。それはメシヤを待ち望んでいた人々たちがたくさんいたからです。しかし、人々があれほど待ち望んでいた主人公がついに来られたのです。その前も、イエスという名前を持っていた人々がたくさんいましたが、彼らも救いに対して待ち望んでいたイエスたちであって、やがてこのイエスキリストが罪から人類を救う救い主として来られたのです。

そしてイエスキリストをインマヌエルと言いました。インマヌエルの意味は神様が罪人である我々とともにおられるという意味です。旧約時代、聖幕におられた神様、宮におられた神様がいまは我々とともにおられるということです。“イエスキリストの受肉(じゆにく)”つまり、神様が御自分の神聖と栄光をもってこの地に人間の姿でこられたこと。これは人間の知識と哲学と科学と理性では理解しきれない不思議な奇跡であり、神秘です。

全宇宙、全人類を創造されたその神様が人間の姿で来られました。この出来事は全人類に一番画期的であり、光栄の出来事に間違いありません。歴史家たちはイエスキリストの誕生を境(さかい)に、BCとADを分けました。これがまさにインマヌエルの出来事の事実を証明するのです。

### 〈ヨセフの応答〉

御使いからこのメッセージをいただいたヨセフはどのように応答しましたか？

24節で彼は主の御使いの命じられたとおりに従いました。マリヤを迎え入れました。神様のおことば、神様のメッセージにしたがうことによって答えたのです。もちろん、ヨセフの従順もマリヤと同じように、いろんな苦しみをもともなったと思います。しかし、どんな苦しみがあってもはやヨセフはすべてを乗り越える準備ができています。なぜなら神様のお言葉をいただいたからです。ヨセフは聖霊によってみごもったマリヤとイエス様が生まれるまで一緒に寝ることはありませんでした。

なぜなら神様がなされるくすしい御業が完全に全うされるまで彼は忍耐し、待ち望みんでいたからです。神様の人ヨセフにとって神様の御言葉に従うことに最優先という人生の優先順位を立てて置いた人でした。

今日我々ももう一度改めて従う事によって降誕を備えた姿、降誕を迎える我々の姿となるようにお祈りします。

“インマヌエルのイエス様! 我々を罪から贖うために、そして、我々とともにおられるために人間の体でこの地に来られた神様。くすしい、神秘の神様の御業の前で我々は言葉も失い、ただただ、主にひざまずき、主をほめたたえるだけです。我々にたずねてこられたイエスキリストに心から感謝をささげ、人生の残りの日々を主とともに歩んだヨセフのように我々もそのように信仰の人とならせて、用いてくださいますよう主イエスキリストの御名によってお祈り申し上げます。” アーメン!